

今年で15周年を迎えた一発合格道場。勉強法や診断士関連の情報をほぼ毎日ブログで発信するほか、先代からのノウハウを継承し、ブログ以外にも多面的な受験生支援活動を行っています。

さて、本章では、長年培ってきた道場流の合格ノウハウに、令和5年度合格者である15代目メンバーの実体験を添えて、2次試験直前期の10月にやるべき対策を受験生にお伝えします。

## 1 復習に集中がカギ

15代目メンバー「おーちゃん」こと、大澤剛史です。私は2次試験初学者でありながら、8～9月期に思うように勉強時間が確保できなかったにもかかわらず、高得点かつオールA評価で2次試験の一発合格をつかみ取れました。それは、10月の勉強法が理に適っていたからだと考えています。

まずは、私が実際に取り組んだ直前期の対策をお伝えします。

### (1) 過去問採点後の復習の徹底

多くの受験生が『ふぞろいな合格答案』（同友館）シリーズを用いて、過去問の採点・復習を行

## 第1章

# 一発合格道場流最終チェック 合格者が10月に取り組んだこと

中小企業診断士試験 一発合格道場15代目  
大澤 剛史 / 鈴木 慎一郎 / 中川 和優

特集2

っていることと料します。しかし、納得のいくまで復習ができていないかと言えば、疑念が残ります。採点し、合格者の答案を読み、模範解答を眺めて終わってはいないでしょうか。

私は「ふぞろい」で採点した後、「これは」と思う合格答案を必ず「経」しました。そして、3人の登場人物の掛け合いをくまなく読むことも怠りませんでした。なぜなら、その中に自分の間違いに気づく重要なヒントが隠されていることを知ったからです。さらに、YouTubeで各事例の解説動画を探し、「ふぞろい」熟読後の「復習の復習」に活用しました。

このように「ふぞろい」とYouTubeを活用して各事例を多面的に分析することで、与件や設問の解釈ミスによる誤った解答を減らし、各事例の理解を深めることにつながったと実感しています。事例を1つ多く解くよりも、復習にかかる時間を長く取ることを推奨します。

### (2) レイヤーの暗記（事例Ⅰ～Ⅲ）

私は事例Ⅰ～Ⅲの過去問を解く中で、事例ごとに解答すべきレイヤーを取り違えることに頭を悩ませていました。つまり、事例Ⅰで組織について

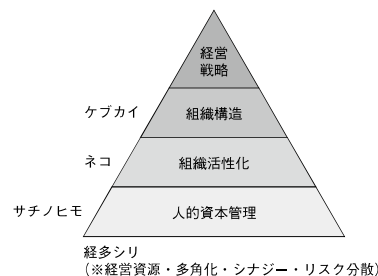
解答すべきところを、事例Ⅱのマーケティングの切り口で解答してしまう、といった具合です。

そこで、一発合格道場の過去記事を読み漁ったところ、事例別のレイヤー図（図表1）なるものを発見。これを書き止め、本試験2日前にはそっくり暗記することに成功しました。

実際の試験では、開始直後にメモ用紙にこのレイヤー図を書き込み、解答の方向性の意識づけを行いました。これが効果絶大で、正しいレイヤーでの冷静な解答作成につながったと感じています。

本試験でレイヤー図を書き込むことは、試験開始直後の緊張を和らげる効果もあります。普段の過去問演習時からレイヤー図記入のルーティン化を強く推奨します。

図表1 事例Ⅰのレイヤー図（例）



### (3) 事例Ⅳの記述試験対策を実施

一方で、毎朝演習をしているにもかかわらず、試験の1週間前になっても事例Ⅳに対する不安は拭えずにいました。事例Ⅳは足切りを避ければよし、と割り切りましたが、情報を集めると「経営分析・CVP・記述問題だけで合格点」、むしろ「記述問題は落とすな」という結論に行きつきました。

そして試験の2日前、セルフ模試の予定を変更し、過去10年分の事例Ⅳの記述問題対策に集中して取り組んだところ、これが実に効果的でした。曖昧な知識の見直しができ、記述問題にわずかな

がら自信を持って臨める状態に仕上げられました。

以上、復習に集中するための対策でした。盲目的に過去問を解くだけでなく、情報を適宜集め、勉強計画を組み直すことも、2次試験に求められる能力かもしれないと改めて思います。

## 2 安定感を追求する

15代目メンバー「しん」こと、鈴木慎一郎です。私は2次試験の直前対策として、安定的に合格点を確認するための取り組みに注力しました。その具体的な内容を紹介します。

### (1) 解答手順の確立と定着（事例Ⅰ～Ⅲ）

1つ目の取り組みは、解答手順を確立し、定着させることです。私は試行錯誤の末、10月初旬までに以下の解答手順を確立しました（図表2）。

図表2 解答手順表

手順	時間（分）	合計時間（分）
受験番号記入	1	1
設問解釈	8	9
与件文通読	7	16
与件文と設問の紐づけ	7	23
解答骨子作成	15	38
解答記入	37	75
誤字チェック	5	80

解答手順は、人それぞれ読み書きのスピードが異なるため、正解はありません。私は、読むスピードは比較的速い一方、書くスピードは遅かったため、解答用紙への記入時間を長めに確保しました。また、誤字チェックの時間も長めに取り、ミスや空欄のない解答を確実にできるようにしま